

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 7 月 17 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	佐藤 侑太郎

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)
日本、京都・京都市動物園、東京・武蔵大学江古田キャンパス
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)
京都市動物園での実験・第 34 回日本霊長類学会大会への参加
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 7 月 2 日～平成 30 年 7 月 16 日 (15 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
京都市動物園 生き物・学び・研究センター：田中正之 博士、山梨裕美 博士、櫻庭陽子 博士
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
目的 本出張は、(1)京都市動物園におけるチンパンジーの認知実験の実施、(2)第 34 回日本霊長類学会大会への参加を目的とする。
所感 京都市動物園での実験は 4 月から継続している。チンパンジーも慣れてきたようなので、今月は実験の回数を増やしデータの収集を目指した。一人が実験参加しているときにも周囲に他の個体がいるため、実験に影響することがあった (Fig. 1)。特定の個体を選んで実験参加してもらうのには苦労したが、一部の個体のデータを取得した。今後もさらに継続していきたい。
 
Figure 1. お勉強部屋で遊ぶオスのチンパンジー。遊びが盛り上がると実験どころではない(左)。練習中のチンパンジー。ジュースを飲む手続きにまだ慣れていない(右)。
日本霊長類学会大会初日は、AI と霊長類研究の関わりに関する自由集会に参加した (Fig. 2)。機械学習によってサルの個体識別をする研究などが紹介され、興味深い内容であった。二日目に

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

は、口頭発表をおこなった。発表では、時間配分を間違えて結果の考察を説明する時間がなくなってしまった。他の学会発表ではそのようなことがないよう、準備して臨みたい。最終日は他の発表者による一般発表を聞いた。和歌山のタイワンザルの駆除など、野生ザルとの共生に関する発表や、統計ソフト R を用いた社会ネットワーク分析に関する発表が特に興味深かった。



Figure 2. 学会会場となった武蔵大学江古田キャンパス。

6. その他（特記事項など）

京都市動物園のみなさまに感謝いたします。特に生き物・学び・研究センターの田中正之 博士、山梨裕美 博士、櫻庭陽子 博士、チンパンジー飼育担当のみなさまに多大なご協力をいただきました。